

次期弘前大学情報基盤システムに望むこと

医学部医学科 古川 結香

h16m1039@hirosaki-u.ac.jp

1 はじめに

フィッシングメールによる個人情報の漏えいの件から、学生として第一に望むことは、個人情報を守る強固なセキュリティである。大学側へは、信頼関係から様々な情報が集められているので、技術面での改善は不可欠であると感じる。

2 つぎに

一方で、学生側もこれを機に個人情報の管理を見直すべきであると思う。大学は、多くの学生にとって初めての立ち場である。個人情報が自分だけでなく家族によって守られてきた人も、大学では多くの事柄が自己責任となる。義務教育や高校生活で情報の授業を習ってきたが、学生側が個人情報を大学に預けるにあたって、もっと詳細な情報管理の説明や指導を受けても良いと思う。日進月歩の「情報」社会であるので、まずは学生側が正しい知識を得て、それぞれが危機感を持つことが情報管理の第一歩であると思う。

3 おわりに

現代、パソコンやスマートフォンなどの電子機器の進化が進み、たった1台で色々なことができるようになった。これらの機械を持つ学生は非常に多い。大学生としての生活に必要な存在と言えるかもしれない。そんな中で、スマホ世代の私たちは、電子機器に個人情報を詰め込み過ぎているように思う。現に私も、知り合いの連絡先やSNSのアカウントのログインIDの記録、様々なパスワード、スケジュール帳など、今の「わたし」に関する情報は全て電子機器の中に入れてしまっている。これでは危ない。被害に遭う前に、各々が電子機器との関係を省みる必要がある。便利な機械とこれからも上手に付き合っていけるように、今こそ学生一人一人が個人情報保護について考え直すべきである。